

令和3年度・令和4年度「ちばっ子の学び変革」推進事業（検証協力校）研究成果報告書

1 学校紹介

「力を出し合って学び合える児童の育成 ～笑顔あふれる岩木小～」を学校教育目標に掲げ、知・徳・体を調和的に育むことを重点に置いている。「協働（共に働く）」を基本的な考えとして、日々の学習や様々な体験活動に取り組んでいる。

2 研究主題

目的に応じて書くことができる児童の育成
～国語科の単元づくりを通して～

3 研究の概要

(1) 児童の実態と課題

令和2年度の全国学力・学習状況調査問題に自校で取り組んだ結果、全国をやや下回った。条件に合わせて考えを記述する設問の正答率が全設問の中で最も低かった。目的や意図に応じて簡潔に書いたり詳しく書いたりすることに課題が残った。

令和3年度より国語科の研究に取り組んでいる。複数の資料を活用して考えたり、書いたり、伝えたりするなどの学習を通して、思考力、判断力、表現力等を高めてきた。令和4年度は、単元づくりに重点を置いた。教科等横断的に実生活と結び付け、必要感があり、達成感・成就感の得られる授業づくりに取り組んだ。

(2) 学力向上のための取組

【令和3年度の取組】

- ① 全国学力・学習状況調査の仮採点と分析
- ② 「書くこと」と「情報の扱い方」に着目した授業展開
 - ・第1学年「はたらく じどう車」
 - ・第5学年「世界遺産 白神山地からの提言」 など
- ③ 『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』を基盤とした学習指導と「まとめあげる」過程における振り返りの記述指導
 - ・岩木小学校「いわき」の観点で振り返りの記述
 - 「い」一生懸命頑張ったこと 「わ」分かったこと 「き」気になること

【令和4年度の取組】

- ① 単元づくり
 - ・『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』を軸とした単元構成にする。
 - ・指導書の単元構成でなく、教科等横断的に実生活と結びつけた単元や「情報の扱い方に関する事項」を扱った単元を構成することで、「思考力、判断力、表現力等 B 書くこと」の資質・能力を高める。
 - ・相手や目的を意識した言語活動を位置付ける。
 - ・必要感のある学習、達成感・成就感が得られる学習を構成する。
 - ・教師見本を作成し、指導に生かす。
 - ・一人一単元づくり、毎回の授業研究会において全学年で授業展開を実施する。

② 朝学習「国語」『廊下掲示物で書く』

- ・廊下掲示物を週に1枚書く。
- ・書く内容によっては、10分×5日間＝50分で書く。
- ・学年や学級で書く内容を決める。

・詩の視写 ・詩をつくる ・本の紹介 ・日記 ・新聞記事への意見 ・ぼくの名前の漢字紹介
・本の紹介 ・四字熟語 ・ことわざ ・翻作 ・生活目標へのめあて など

③ 読書活動

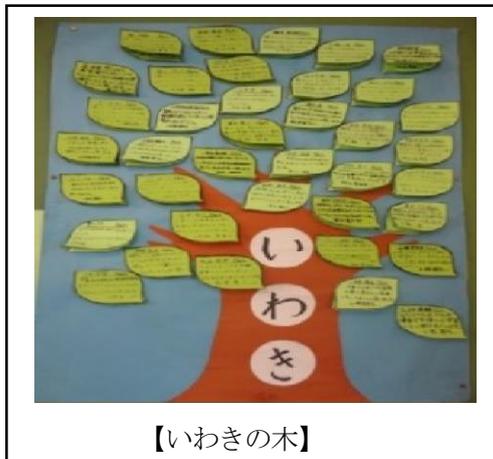
- ・年間20冊以上を目標に図書室等から本を借りて読む。
- ・並行読書として、学習教材に関連のある本を学年や学級で集め、読める環境を整える。
- ・図書委員会が貸出冊数の状況や推薦する図書の紹介を校内放送等で呼びかけ、読書活動の推進を図る。
- ・「読書手帳」や「本のはらっぱカード」に本の題名や著者、感想等の読書記録を書く。

④ 学習の振り返り

- ・授業や単元の振り返りを「いわきっこ」の観点でノートに書かせる。
「い」一生懸命頑張ったこと 「わ」分かったこと 「き」気になること
「こ」これから生かすこと

⑤ いわきの木

- ・木の葉型のメッセージカードを上から重ねて貼り、教室背面に掲示物する。
- ・友達のよいところ、頑張っていたところを毎月1回以上記入する。



(3) 加配教員（学習サポーターを含む）の活用

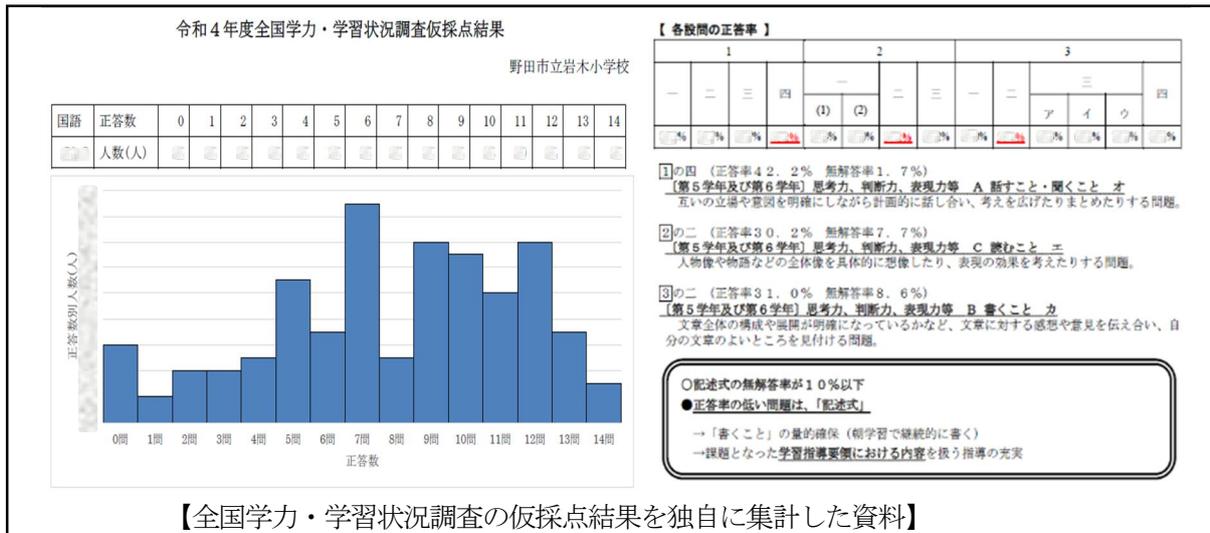
加配教員及び学習サポーターは、課題のある児童の支援にあたり、授業づくりの際に授業者と連携して教材開発や授業準備に取り組んだりした。

4 成果

【令和3年度の成果】

- 令和4年度実施の全国学力・学習状況調査大問3の二〔思考力、判断力、表現力等〕B 書くことの領域の問題において、平均正答率は全国を上回った。（令和3年度実施の同様の問題では、全国を下回っていた。）無解答率は、全国平均のおよそ半分であった。その他の記述式問題においても無解答率が顕著に低く、書く取組への意識が向上している。

○全国学力・学習状況調査の仮採点を行い、独自に作成した集計ソフトを活用したことにより、正答率や正答数分布グラフが得られ、課題を把握することができ、早期から指導に生かすことができた。



○「情報の扱い方」に重点を置いたことにより、全学年で系統性を意識した授業づくりについて共通理解を図ることができた。



○全国学力・学習状況調査の記述問題における無解答率が低いことから、複数の資料を関連付け、自らの意見を記述させてきたことにより、「書くこと」と「情報の扱い方」の学習の成果が得られた。

○どの学習においても振り返りを書かせたことにより、書く機会が増えた。

○相手意識や目的意識を教師が明確に指導したことにより、児童の意欲が高まり、目的に応じて表現しようとする意識が向上した。

【令和4年度の成果】

○一人一単元の単元づくりを担ったことで、担任それぞれが授業改善を図ることができた。特に、教科等横断的な視点を持ち、他教科や学校行事と関連させ、児童にとって必要感のある学習を構成することができた。

○児童の「書きたい」や「伝えたい」などといった、「～したい」を生み出す探究的な単元を構成したことにより、児童が意欲的に学習に取り組むことができ、達成感・成就感のある学習になった。

【これまでの単元づくりの例】

第1学年 「かたかなポエム」「どうぶつとしょかんをひらこう」

- 第2学年 「めざせ！かんさつ名人！」「おしえてあげるね、『町のすてき』」
- 第3学年 「野田の旅をプレゼントしよう」「感謝の気持ちをお礼の手紙で届けよう」
「岩木小オリジナル絵文字を作ろう」
- 第4学年 「エコライフ～オリジナルリーフレットを作って知らせよう～」
「4年3組新聞社創立！」「岩木っ子に伝えよう～祝日ってなぜあるの？～」
- 第5学年 「メダカプロジェクト『メダカポスターを作ろう』」「5年1組からの提言」
「心揺さぶられる場面はここだ!!やま場を見つけて読もう！」
- 第6学年 「作家になって物語を作ろう」 「意見文を書いて、新聞に投書しよう！」
「より充実した修学旅行になるような観光パンフレットを作ろう」
- 特別支援学級 「ものき夏祭りを成功させよう」「夏休みの思い出を作文にしよう」
「情報ライブもも屋」

○廊下掲示物を週に1枚以上書かせたことにより、児童の記述量が増えた。朝学習や学習の振り返りを書かせる取組等、常時的に書くことを位置付けたことが児童の記述量の向上に繋がった。



【第1学年 学校探検のまとめ】



【第6学年 新聞記事の要約と感想】

○学年図書棚を設置したことにより、日常の読書量が増えた。

○異学年間で図書推薦活動を行ったことで、お気に入りの本を伝える楽しさを味わわせることにつながり、意欲的に読書をしようとする姿が見られた。



【学年図書棚】



【異学年間の図書推薦活動】

5 今後の課題

○言語活動や廊下掲示物で書かせてきたことで書く意欲は高まりつつあると捉えている。しかし、既習の漢字を使うことや主語と述語を一致させること等、記述内容の質を向上させる指導が各学年の課題である。